

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 1月19日

事業所名 スマイルキッズステーションきらきら

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動の部屋には必要な物以外は置かないようにしている	引き続き整理整頓を心がけていく。
	2 職員の配置数は適切である	○		児童の特性に応じたスタッフの配置を行っている。	引き続き児童の特性に応じたスタッフの配置を行っている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		児童も片付けやすいような環境作り(視覚化、収納しやすい場所)を行っている。	引き続き片付けが分かりやすい環境作りを行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		掃除、消毒を行い清潔に保っている。	毎日の掃除・玩具の消毒を継続して行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		児童の課題や活動時の様子など職員間で情報共有を行っている。	引き続き職員間での情報共有、連携に努める。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施し保護者等の意向聞き取り、職員会議で情報共有を行い今後の業務について話し合いを行い業務改善に繋げている。	引き続き年1回の保護者アンケートを実施する。また通常業務の中でも保護者とのやりとりを丁寧に行っていく。年1回の面談日を設ける。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		評価公表をホームページにて行っている。	引き続きホームページで公表していく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		月1回の職員会議を行い業務の振り返り見直しを行い業務改善に繋げている。	引き続き毎日の業務を丁寧に行い、月1回の職員会議にて業務改善を図っていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		希望者の外部研修を推進している。また職員会議にて研修内容の情報共有を行っている。	引き続き積極的な研修参加を促し、職員で共有を行っていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者や関係者からの聞き取りを基に個別支援計画を作成している。	引き続き適切な評価を行い職員間で情報共有を図っていく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		作業療法士による評価を行っている(標準化されたもの、観察による質的評価)。	引き続き必要に応じて適切な評価を行っていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童の様子や保護者、関係機関の情報をまとめ支援計画を作成している。また誰にでも分かりやすい支援計画内容を心がけている。	引き続き適切な評価、情報収集をもとに支援計画を作成していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で情報共有を行い支援を行っている。また日々の振り返りを行い記録に残し、支援に生かしている。	引き続き職員間での情報共有、毎日の活動の振り返りを行っていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		保育士、作業療法士で集団活動プログラム及び個別機能訓練の立案を行っている。	引き続き各専門職の専門性を活かし活動内容を考えていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		それぞれの課題に応じた活動だけでなく季節感を感じられる活動も取り入れている。	引き続き児童が楽しみながら参加できる活動を計画していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動と個別活動を並行し展開している。また集団活動の中でも支援が必要な児童には個別のサポートを行っている。	児童の状態を適切に評価し、その児に合った環境設定を行ったり支援内容を選択、展開していく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼にてその日の活動内容やスタッフの配置など確認している。また活動後の振り返りを基に次の支援に生かしている。	引き続きそれぞれのスタッフが各自の役割に責任を持ち支援を行っていく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		活動後の振り返り、記録を行っている。また次の活動に生かすための話し合いをその都度行っている。	引き続き活動後の振り返り、記録を行っていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人の記録と全体の活動の様子がわかるような記録を行っている。	引き続き日々の支援内容を的確に記録に残していく。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に再評価を実施するほか、必要に応じて事業所内でカンファレンスを行い計画の見直しや支援内容について話し合いを実施している。	引き続き支援計画の振り返りを行い児童の成長に応じた支援計画作成を行っていく。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		主に児童発達支援管理責任者が参加し必要に応じ作業療法士も同席している。	児童発達管理責任者や作業療法士だけでなくその他のスタッフでも児童の状況を把握し会議に参加できるよう努める。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		行政機関や相談機関、通っている園や事業所などと情報交換、情報共有を行い児童の支援に生かしている。	引き続き関係者連携を行い支援に生かしていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		現在のところ、対象者がいません。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		現在のところ、対象者がいません。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の要望に応じて必要な児童に移行支援シートを作成し提供している。また必要に応じ園での児童の様子を見学している。	引き続き移行支援シートを作成してスムーズな就学へのサポートが出来るように努める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行支援シートを活用している。また就学先決定まで保護者の相談に応じ関係機関と連携を行っている。	引き続き就学に向け支援を行っていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じ相談等させてもらっている。	他の事業所との情報交換を積極的に行っていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		現在は機会がない。	地域の子どもたちとの交流の場の検討を行っていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		現在は機会がない。	機会があれば協議会への参加を行い支援に繋げていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に事業所の様子を伝えたり、ご自宅での様子を聞いたりしている。また連絡帳を活用している。	引き続き送迎時のやりとりや連絡帳の活用を行い情報共有を行っていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		事業所内でのペアレントトレーニングは行っていないが保護者の相談には電話やメール、連絡帳を通して随時対応している。	保護者の不安が少しでも軽減できるようにサポートを行っていく。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明を行っている。	引き続き丁寧な説明を心がける。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画書に関しては保護者から同意を得ている。	引き続き分かりやすいニーズに合った支援計画作成を心がける。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時に保護者の話や悩み事を聞いたり、必要に応じ面談や電話連絡、メールなどで相談に応じている。	引き続き事業所での様子を伝えご自宅での様子の情報収集を行っていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は保護者開の実施は検討していない。面談日を設ける予定。	保護者にとってオープンな場となるように工夫を行っていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		必要に応じ面談日を設けている。また送迎時などにもお話の時間を設けたり連絡帳でも情報交換を行っている。	引き続き相談に迅速に対応できるよう努める。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月おたよりを作成し保護者に活動の様子をお伝えしている。	引き続きおたよりを作成し事業所の様子を発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		日々の業務のなかで個人情報保護に努めている。	引き続き個人情報保護に努める。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		口頭ではスムーズにコミュニケーションがとれない保護者に対し、メールで相談対応している。	引き続き情報共有を行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		現在実施していない。	今後検討を行っていく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		契約時に説明を行っている。また職員勉強会でマニュアルの確認を行っている。	引き続き、契約時の説明、職員同士でのマニュアルの確認を行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		職員勉強会でのマニュアルの確認、定期的な設備点検を行っている。	今後消防署での研修など検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前にお子様の状態を情報収集し共有している。	引き続き必要な情報収集を行っていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーに関して事前の情報収集に努めている。	引き続き情報収集を行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告書作成をおこない、毎月の職員会議で情報共有を行っている。	引き続きヒヤリハットの報告書作成、情報共有を行い事故防止に努める。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会参加や職員勉強会にて情報共有を行っている。	引き続き研修会参加を促し、職員勉強会を行っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		必要時には家族に説明し計画書に記載していく必要があるが現在のところ対象者はいない。	説明を行い保護者の同意を得た上で必要に応じて実施していく。